

集落内の情報伝達手段に関する アンケート ＝ 集計結果 ＝

調査対象：町内164集落区長

回答者：各集落から1名（区長・自治会長・担当者等）

調査時期：令和8年8月5日（水）～8月20日（木）

調査内容：集落内の情報伝達手段の現状と課題、自治会支援 DX アプリ等の活用可能性について

回答方法：(1) Google フォーム

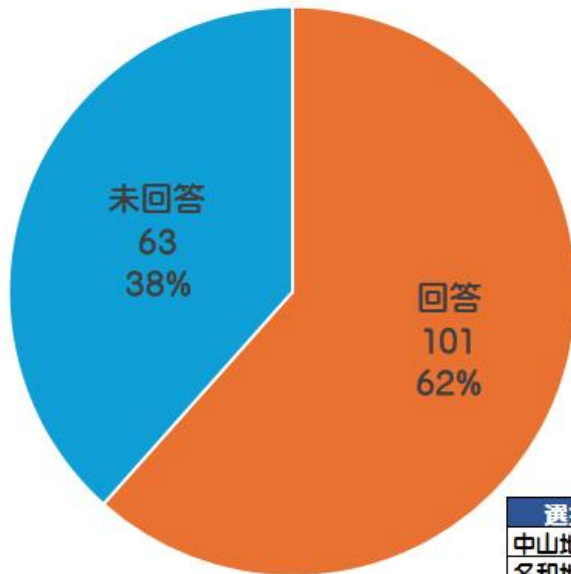
(2) 役場窓口への持参による提出

(3) FAX

(4) 電子メール

大山町議会 総務経済常任委員会

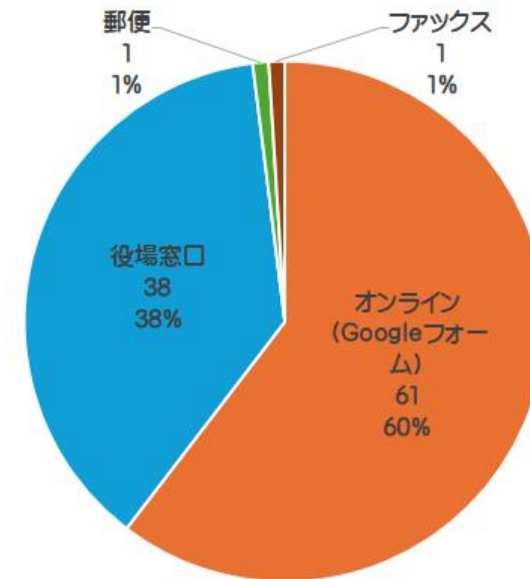
回答状況 (対象164集落)



■ 回答 ■ 未回答

選択肢	回答数	地区内割合
中山地区	28	65.1%
名和地区	34	51.5%
大山地区	38	69.1%
未記入	1	

回答方法

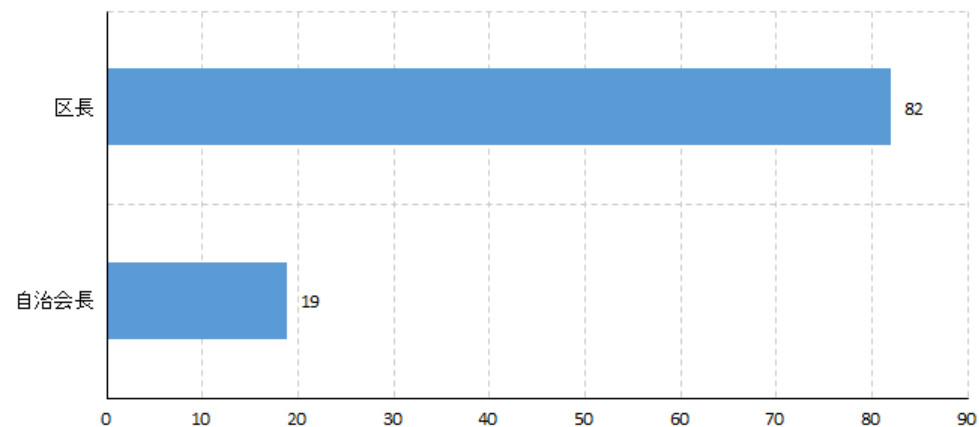


■ オンライン (Googleフォーム) ■ 役場窓口 ■ 郵便 ■ ファックス

1-2 回答者の役職

選択肢	件数	割合
自治会長	19	18.8%
区長	82	81.2%

回答者は区長82件 (81.2%)、自治会長19件 (18.8%)。集落の代表者からの回答です。

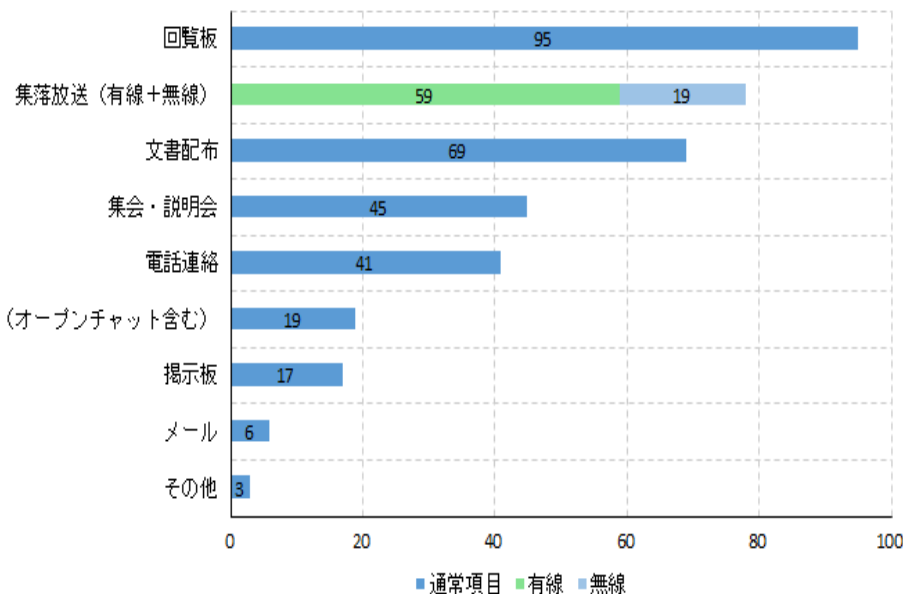


2-1 現在、集落内の連絡や情報伝達に利用している手段をお聞かせください。(複数回答可)

選択肢	通常項目	有線	無線	割合
回覧板	95			94.1%
集落放送（有線 + 無線）	78	59	19	77.2%
文書配布	69			68.3%
集会・説明会	45			44.6%
電話連絡	41			40.6%
LINE グループ（オープンチャット含む）	19			18.8%
掲示板	17			16.8%
メール	6			5.9%
その他	3			3.0%

集落放送は有線+無線合算しています

LINE グループ（オープンチャット含む）

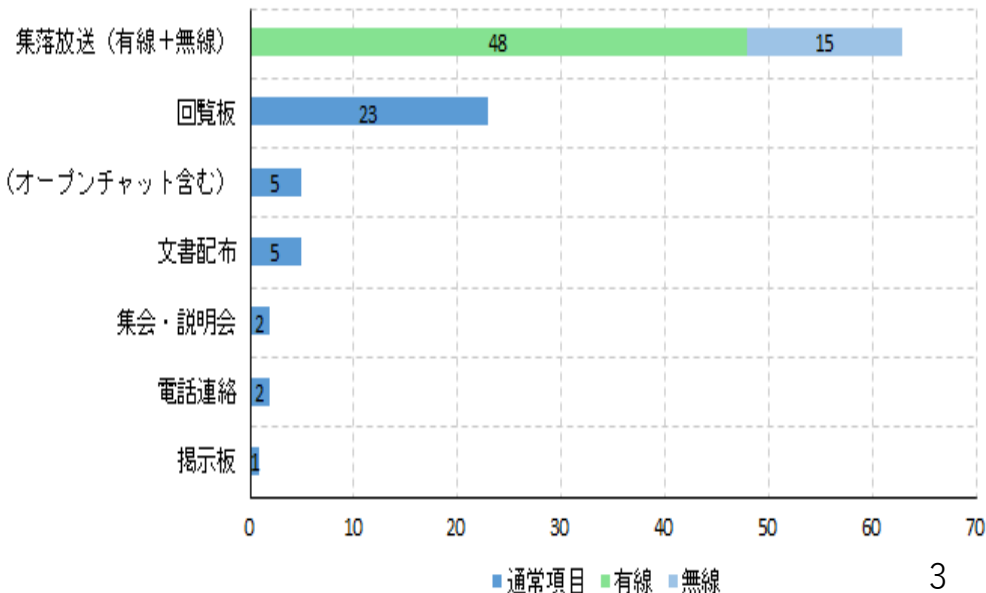


回覧板95件が最多。集落放送は有線59件 + 無線19件 = 78件 (77.2%) で、広く利用されています。

2-2 主に利用している手段はどれですか。(1つ選択)

選択肢	通常項目	有線	無線	割合
集落放送（有線 + 無線）	63	48	15	62.4%
回覧板	23			22.8%
LINE グループ	5			5.0%
文書配布	5			5.0%
集会・説明会	2			2.0%
電話連絡	2			2.0%
掲示板	1			1.0%

LINE グループ（オープンチャット含む）

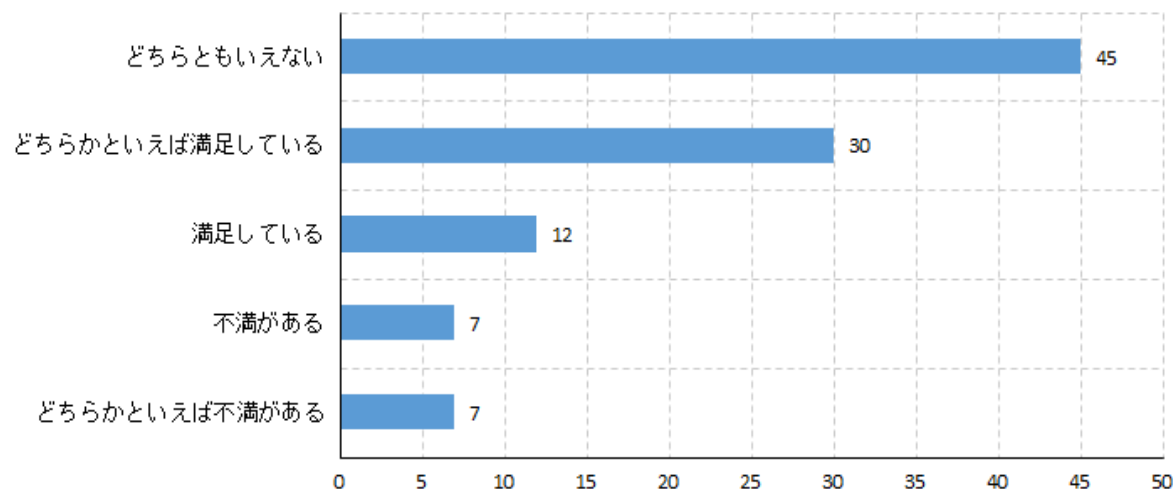


主な情報伝達手段は集落放送63件（有線48 + 無線15、62.4%）で、全体の約6割です。

2-3 現在の情報伝達手段について、どの程度満足していますか。

選択肢	件数	割合
どちらともいえない	45	44.6%
どちらかといえば満足している	30	29.7%
満足している	12	11.9%
不満がある	7	6.9%
どちらかといえば不満がある	7	6.9%

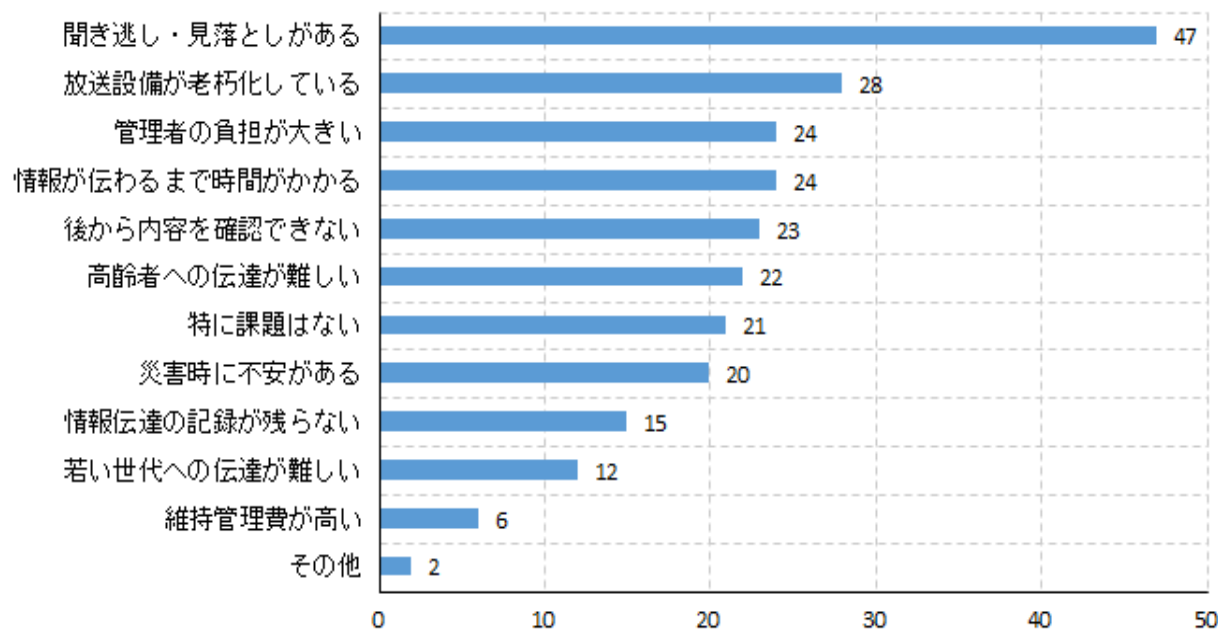
満足・やや満足42件 (41.6%)、中立45件 (44.6%)、不満・やや不満14件 (13.9%)。強い不満が多数ではありませんが、中立回答が多く改善の余地があります。



2-4 現在の情報伝達手段の課題や問題と感じていることは何ですか。(複数回答可)

選択肢	件数	割合
聞き逃し・見落としがある	47	46.5%
放送設備が老朽化している	28	27.7%
管理者の負担が大きい	24	23.8%
情報が伝わるまで時間がかかる	24	23.8%
後から内容を確認できない	23	22.8%
高齢者への伝達が難しい	22	21.8%
特に課題はない	21	20.8%
災害時に不安がある	20	19.8%
情報伝達の記録が残らない	15	14.9%
若い世代への伝達が難しい	12	11.9%
維持管理費が高い	6	5.9%
その他	2	3.0%

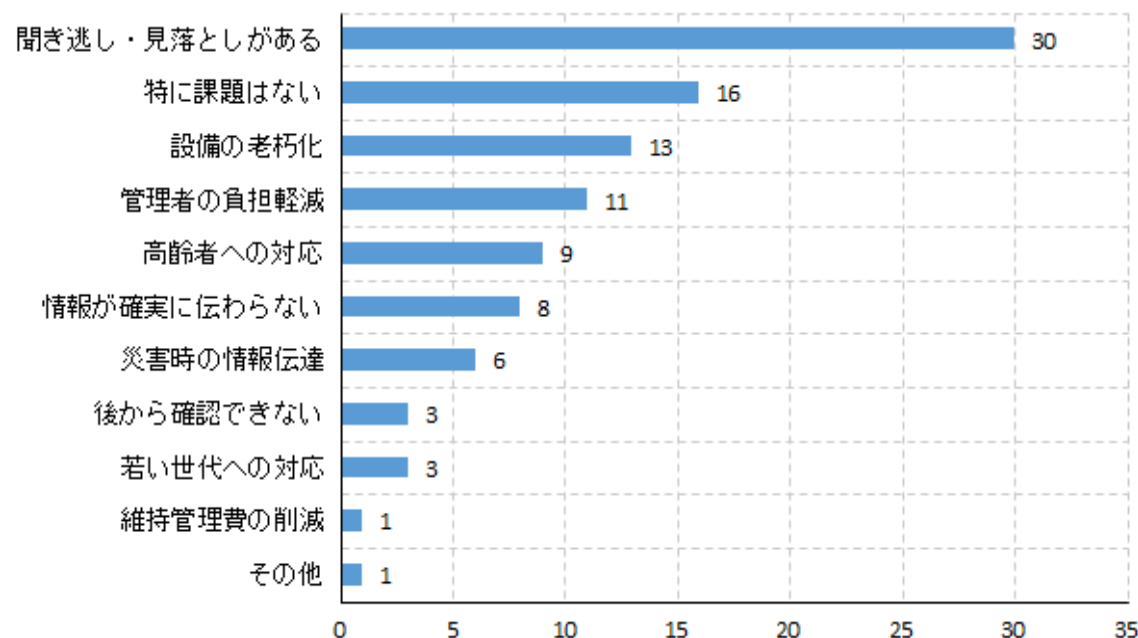
「聞き逃し・見落とし」47件 (46.5%) が最多。設備老朽化28件、伝達の遅さ24件、管理者負担24件が続きます。



2-5 現在の情報伝達手段について、集落として最も改善が必要だと思う課題を1つ選んでください。

選択肢	件数	割合
聞き逃し・見落としがある	30	29.7%
特に課題はない	16	15.8%
設備の老朽化	13	12.9%
管理者の負担軽減	11	10.9%
高齢者への対応	9	8.9%
情報が確実に伝わらない	8	7.9%
災害時の情報伝達	6	5.9%
後から確認できない	3	3.0%
若い世代への対応	3	3.0%
維持管理費の削減	1	1.0%
その他	1	1.0%

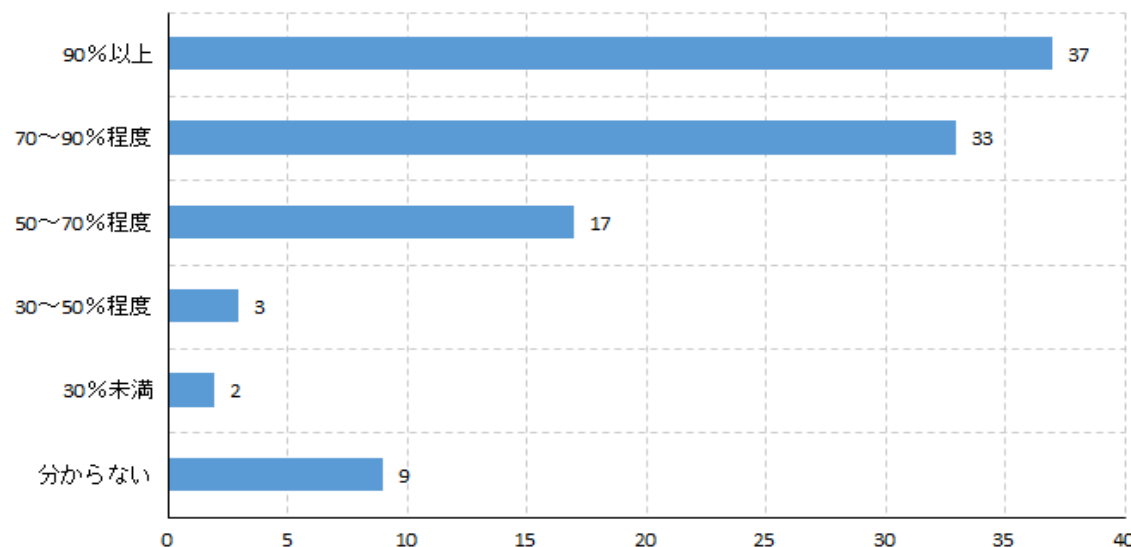
最優先の改善課題は「聞き逃し・見落とし」30件(29.7%)。情報の確実な伝達と後から確認できる仕組みが重要です。



3-1 集落内でスマートフォンを利用している世帯はおおよそどの程度と認識していますか。

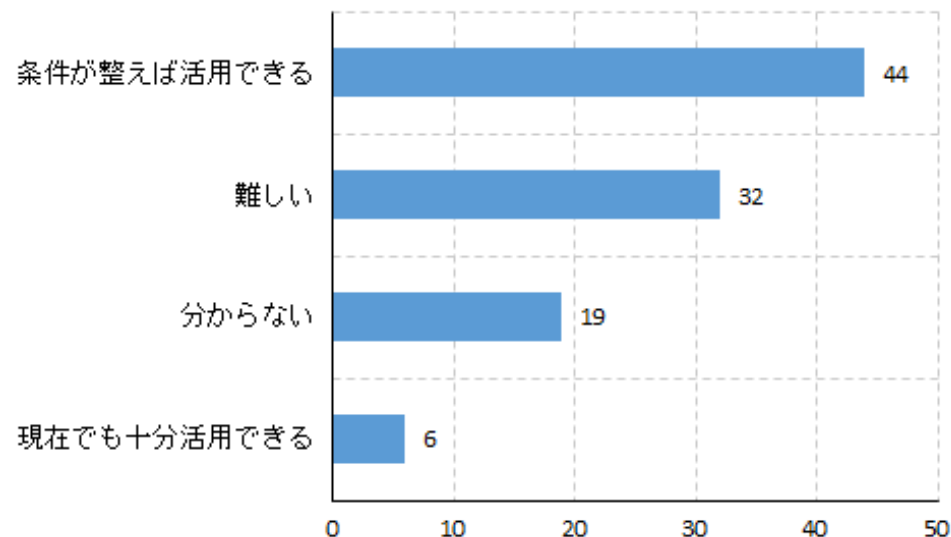
選択肢	件数	割合
90%以上	37	36.6%
70～90%程度	33	32.7%
50～70%程度	17	16.8%
30～50%程度	3	3.0%
30%未満	2	2.0%
分からない	9	8.9%

スマホ利用世帯70%以上との認識は70件(69.3%)。デジタル活用の基盤は相当程度あります。



3-2 集落内の情報伝達手段として、LINE等のスマートフォンアプリを活用できると思いますか

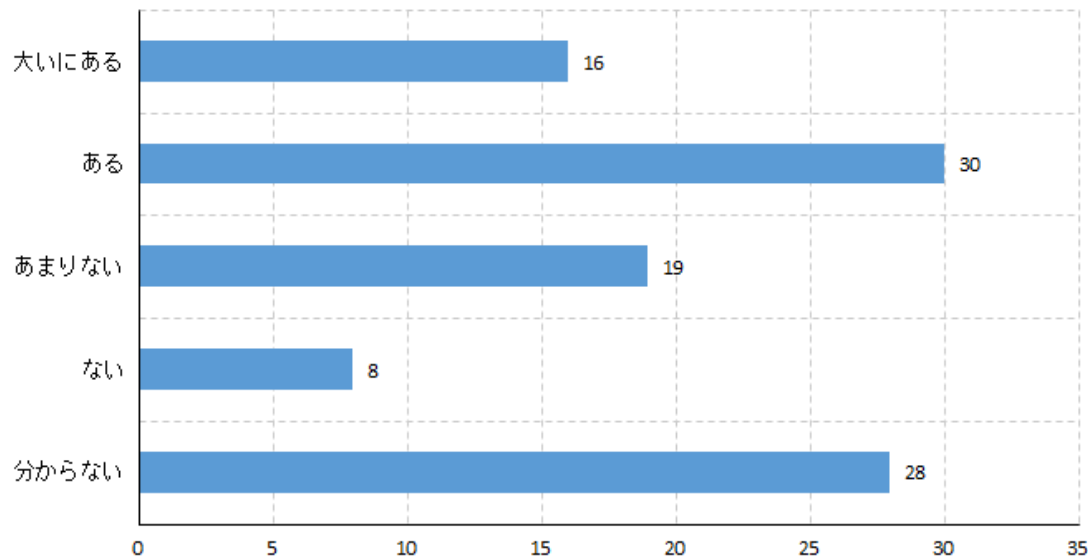
選択肢	件数	割合
条件が整えば活用できる	44	43.6%
難しい	32	31.7%
分からない	19	18.8%
現在でも十分活用できる	6	5.9%



「十分活用できる＋条件が整えば活用できる」は50件（49.5%）。一方「難しい」32件で、条件整備が鍵です。

4-1 自治会支援DXアプリを集落で導入を検討したいと思いますか。

選択肢	件数	割合
大いにある	16	15.8%
ある	30	29.7%
あまりない	19	18.8%
ない	8	7.9%
分からない	28	27.7%



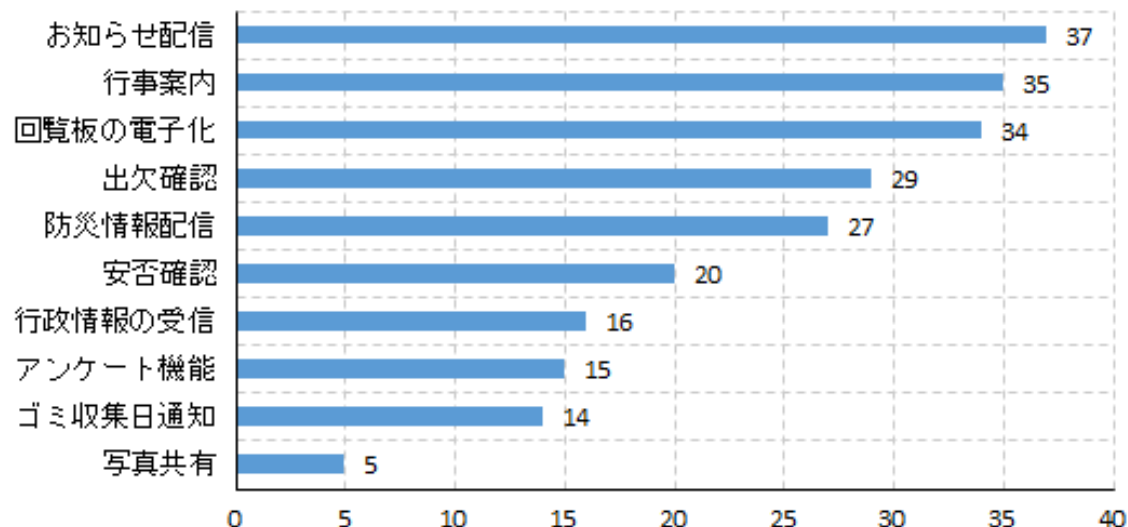
DXアプリ導入に前向きは46件（45.5%）。慎重・未定層も多く、具体的な費用・支援策を示した検討が必要です。

4-1で「大いにある」「ある」と答えた方に質問します。(対象46件)

4-2 アプリで利用したい機能は何ですか(複数回答可)

選択肢	件数	割合
お知らせ配信	37	82.2%
行事案内	35	77.8%
回覧板の電子化	34	75.6%
出欠確認	29	64.4%
防災情報配信	27	60.0%
安否確認	20	44.4%
行政情報の受信	16	35.6%
アンケート機能	15	33.3%
ゴミ収集日通知	14	31.1%
写真共有	5	11.1%

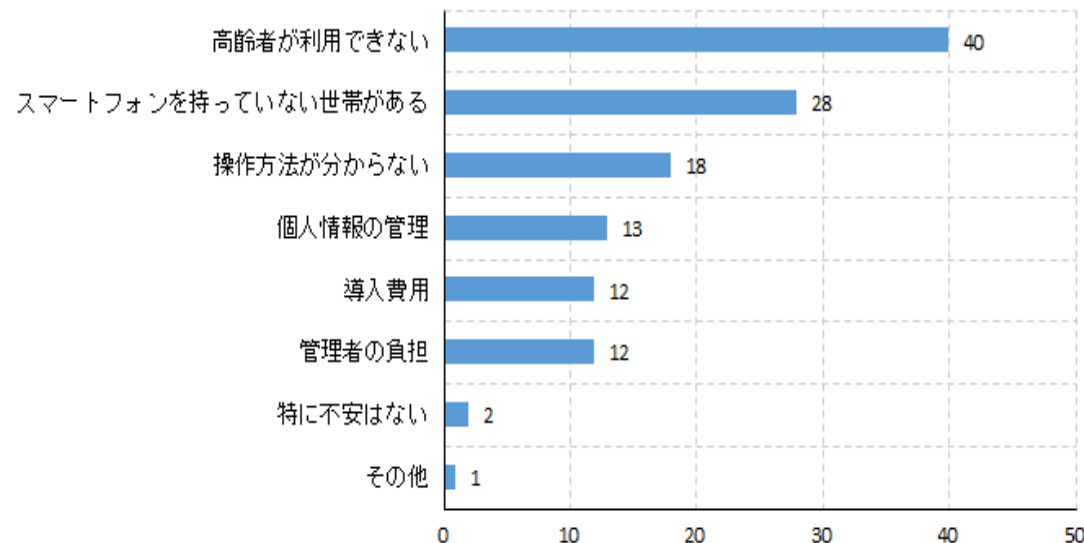
お知らせ配信37件(82.2%)、行事案内35件、回覧板電子化34件が上位で、日常の自治会実務を支える機能への需要が高いです。



4-3 アプリ導入にあたり不安な点がありますか(複数回答可)

選択肢	件数	割合
高齢者が利用できない	40	87.0%
スマートフォンを持っていない世帯がある	28	60.9%
操作方法が分からない	18	39.1%
個人情報の管理	13	28.3%
導入費用	12	26.1%
管理者の負担	12	26.1%
特に不安はない	2	4.3%
その他	1	2.2%

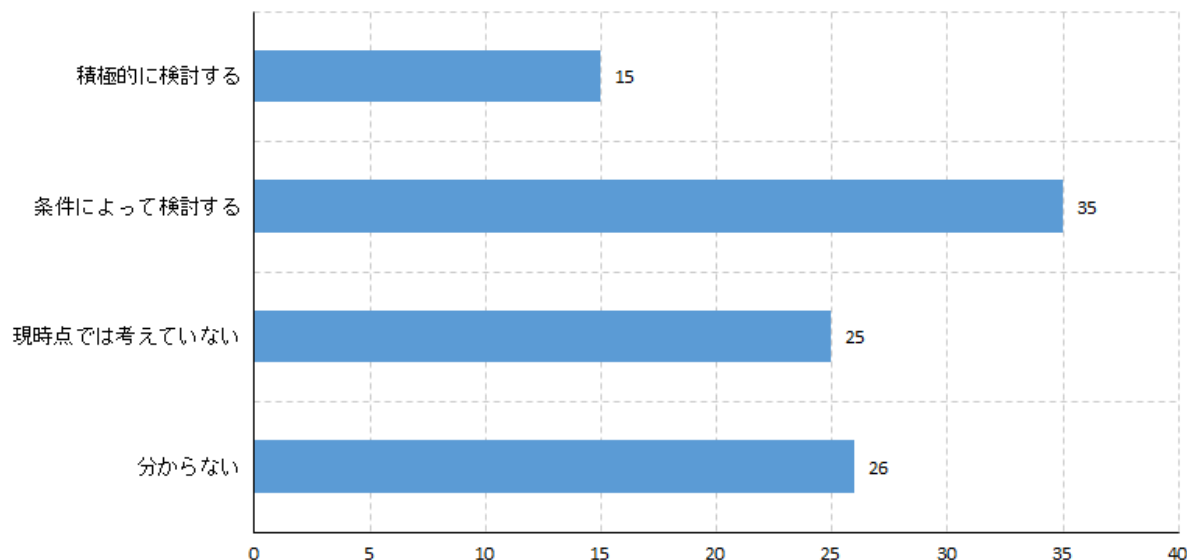
「高齢者が利用できない」40件(87.0%)が突出。スマホ非保有世帯28件も多く、代替手段と操作支援が不可欠です。



4-4 町による自治会支援DXアプリの導入補助金や説明会、操作支援があれば導入を検討しますか。

選択肢	件数	割合
積極的に検討する	15	14.9%
条件によって検討する	35	34.7%
現時点では考えていない	25	24.8%
分からない	26	25.7%

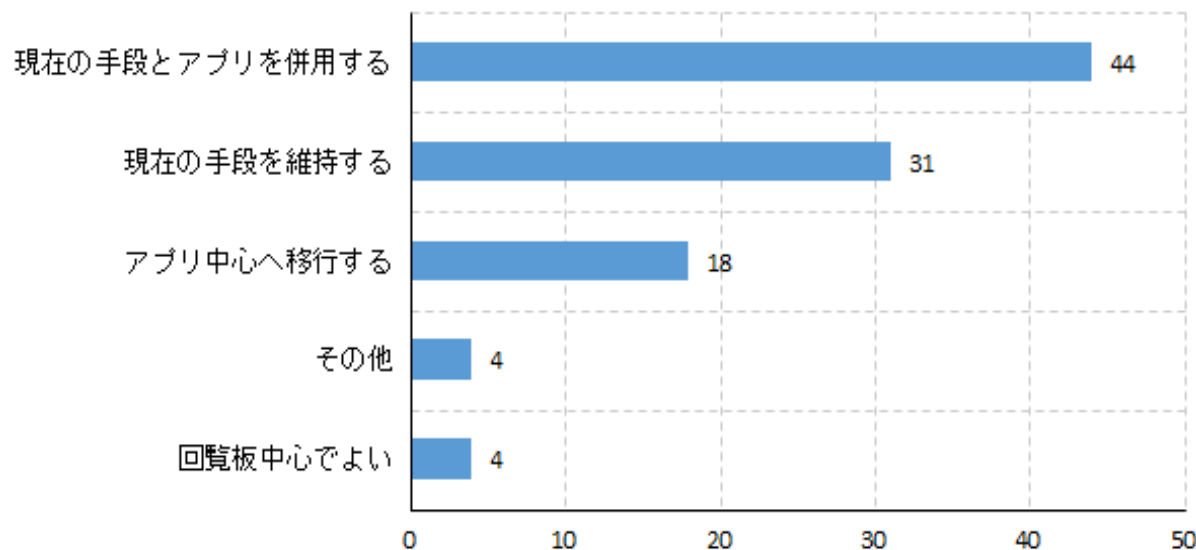
町の支援があれば「積極的＋条件付きで検討」は50件(49.5%)。



5-1 今後、集落の情報伝達手段として最も望ましいと思うものはどれですか。

選択肢	件数	割合
現在の手段とアプリを併用する	44	43.6%
現在の手段を維持する	31	30.7%
アプリ中心へ移行する	18	17.8%
その他	4	4.0%
回覧板中心でよい	4	4.0%

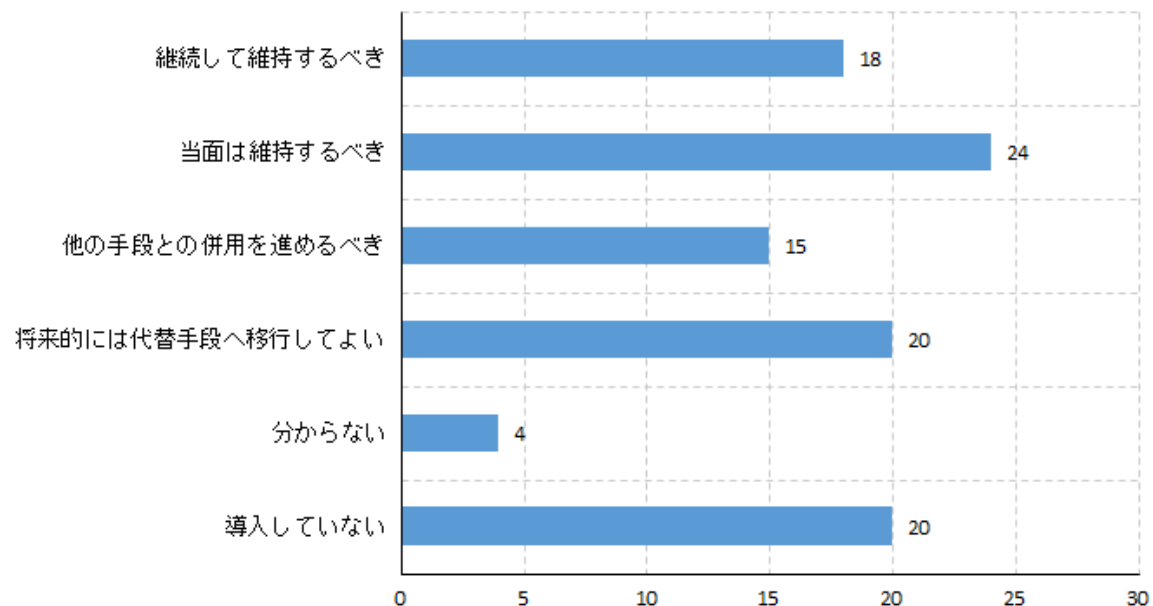
「現在の手段とアプリを併用」44件(43.6%)が最多。
「アプリ中心」18件を加えるとアプリ活用を望む回答は62件(61.4%)です。



5-2 集落有線・無線放送設備について今後どのように考えますか。

選択肢	件数	割合
継続して維持するべき	18	17.8%
当面は維持するべき	24	23.8%
他の手段との併用を進めるべき	15	14.9%
将来的には代替手段へ移行してよい	20	19.8%
分からない	4	4.0%
導入していない	20	19.8%

「継続＋当面維持」42件(41.6%)、「併用＋将来代替」35件(34.7%)。集落放送は維持しながらも、代替手段の活用を検討する今後の方向性がうかがえます。



6. 自由意見

※「4-1 DXアプリ導入意向」と「5-1 将来像」の回答は参考記載

4-1 DXアプリ導入意向		5-1 将来像	自由意見
1	大いにある	アプリ中心へ移行する	作業中は放送の聞こえる範囲にいないなど、定時でながれない放送は聴き逃しがあるので、再度個別に印刷物の配布をしており、負担が大きい。世帯数が多い集落はどうしているのか気になる。携帯に送り、見逃しや聴き逃しがあっても後日確認が出来ればありがたい。放送だと放送する時間など工夫しているが、配信だと気にせず、発信者が楽になる
2	ある	現在の手段とアプリを併用する	固定電話を止めている家庭があり連絡が付きにくい
3	大いにある	アプリ中心へ移行する	導入経費を町で負担して欲しい(その分、人件費を削減に繋げて欲しい)
4	分からない	回覧板中心でよい	集落単独でのアプリではなく、大山町のアプリのほうが活用できると思う。(アプリ内で自身の集落を設定でき、情報を取得するような)
5	大いにある	現在の手段とアプリを併用する	部落のグループラインを作ってはいるが、現状スマートフォンの活用が難しい高齢者が多く約半数しか活用できていない。 町のアプリを導入しても、その半数にしか伝わらないが情報量が多くなるのは良いですね。
6	大いにある	アプリ中心へ移行する	毎月の各家庭への配布物がとても大変です。戸数ごとに数は分けてあるが、何部かあるそれらを1冊の間に挟んで、更に各家庭に配布する作業が大変です。また、最近建物は集落内にあるけど自治会からは抜ける家庭が増えており、それらの家庭に配布物を配らなくてもよければまだ良いが、配らないといけな。ただ抜けた家庭は自治会長をしなない為、抜けない家庭が割を食わされている。
7	大いにある	現在の手段とアプリを併用する	90%以上を持っているのでLINE伝達が望ましいですね。
8	大いにある	現在の手段とアプリを併用する	同一情報伝達を複数回実施。
9	分からない	現在の手段とアプリを併用する	放送設備が老朽化しており、無線放送に切り替えたいが、予算的にきびしい。また、近年、諸団体等からの配布、回覧文書等がかなり多くなっている。
10	ある	アプリ中心へ移行する	有線放送設備が老朽化しており、維持費がかかる。また、無線化は費用が高い。個人情報の管理等の問題をクリアできたらアプリの活用ができた、と思う。
11	分からない	現在の手段を維持する	今年からLINEグループでの伝達を始めました。全世帯がLINEグループに加入出来れば放送設備は無くす選択肢もあります。 自治会支援アプリについては全く分かりませんので資料があれば見てみたいです。
12	ある	アプリ中心へ移行する	年始の町からの連絡を役場でコピーできないで困っていることがこれにより解消される。部落全体で問題になっている内容であります。
13	あまりない	無線放送システムへ移行中	いろいろありますが、現時点ではスマホ等を使わない・使えない家庭のことを考え、聞き直し・録音のできる無線放送が適当だと思っています。急な情報伝達も、家にいる時間の長いお年寄り・子ども達にも、ほぼ確実にできると考えています。いざという時に有効です。
14	大いにある	アプリ中心へ移行する	若者定住のためにも、アプリ導入は必要と思います。スマホ活用できない方へは直接支援で対応できます。放送受信機が新規1台7万円であり、今後老朽化を考えると通信手段が困難になると思います。
15	ある	現在の手段とアプリを併用する	今年から試験的にラインによる情報提供を始めている。登録者は30人で登録率は15%程度なので、当面は既存手段との併用で対応せざるを得ない。

16	分からない	現在の手段とアプリを併用する	最終の2点は集落ではなく、町の放送についての意見です。 ・時刻放送が長すぎると感じる事がある。 ・防災無線で消火訓練の放送が訓練と言う予告なしにあり、負担だった。事前にあったかもしれないが、年寄りには忘れるので、必ず、「訓練」というのを最初に言ってもらいたい。 ・集落については、情報伝達もさることながら、高齢化がすすみ、区長ができる人がいなくなって来ている。そこが大きな問題。
17	分からない	現在の手段とアプリを併用する	○回覧板はかなり情報伝達に日数がかかります。各家庭で目を通す時間もかかり、次の家に回すまでの時間もかかります。仕事で不在の家のポストに回覧板が入れば1～2日はその家で過ぎていきます。時代にあっていない気がします。 しかし、、、LINEやアプリで回覧データが届いても、忙しかったり興味がなく開かない可能性がある気がします。高齢者が扱えない可能性もあります。家の誰かのスマホにデータが届いたとしても、それをわざわざ他の家族に共有して見せることはほぼ無い気がします。まだ、紙媒体でしたら家族の誰かがチラッとでも見る可能性がある気がします。 お金もかかり時代に逆行するようですが、思い切って、回覧の紙媒体を全戸配布物にしてはどうでしょうか？回覧するものを無しにする。そうすれば、情報伝達は早いです。そうすれば高齢者が歩く危険をおかして、次の家に持って行かなくても良いです。チラシを作るかたも、全戸配布となれば見てもらおうと、作る意欲が違ふと思います。その際に、配布物も各戸に配れる状態にして区長宅に届けば助かります。現在、自分の集落では、区長が自宅で、県政だよりや社協だより、地域自主組織から届いたチラシを一度重ねまとめて、それを町報に挟んで、回覧物とともにまわして各戸に取っていただいています。ポストが小さい家は入りませんし、最近のポストの開け入れの仕方がわからない高齢者の方もいます。そして、回覧が最後の家に届くまでに催しが終わってしまっている場合もあります(例:やらいや逢坂朝市)。 大山町から届いた物を各家庭のポストに入れるのであれば、雪などの天候条件はあるかもしれませんが、20戸位であれば区長一人でも1時間かかりません。多い集落は数人手分けすればすぐだと思います。こんな時こそLINE活用で「今日、配布物を配れる人いますか～？」みたいな連絡をとりあえば良いのではと思います。 それから、集落で取り入れた無線放送に関しまして、、、機能で、家を不在にしていた時の録音再生ボタンが付いているのですが、再生の仕方や、過去の放送の消去放送、放送があったことの有無の確認方法などを、全く忘れたり、わからなくなっている方も多いと思います。こちらに関しましては、販売業者側のサービス対応の姿勢の問題もあると思います。購入してもらったら終わりではなく、その後も使い方がわからない方がいないか、こまめにチェック指導などをする必要があると思います。大山町も、そんなサービスの行き届く無線放送販売業者をすすめて助成金を出せば良いと思います。
18	分からない	現在の手段とアプリを併用する	有線放送の老朽化に伴い修理費用が多額になる
19	大いにある	アプリ中心へ移行する	部落有線放送は時間を限定されているため、勤務の都合上放送できない状況があり、自由にいつでも連絡できる体制が望ましい
20	あまりない	現在の手段とアプリを併用する	高齢者のみの世帯にはアプリ操作などはハードルが高いのでそこが課題 教えればできるというものではないので併用が一番現実的だと思います 現在の有線放送は聞き逃しがあるので、防災無線アプリのように聞き逃したものを聞ける手段があると便利

21	大いにある	現在の手段を維持する	やはり、スマホを持っていない世帯(高齢でひとり世帯等)が何件かあるため現時点では、DX化は不可と考えます。10年後は可能かもしれません。
22	ある	アプリ+回覧板	有線放送はお風呂や外出されていると、伝わらない。ない集落も多いので、今後はアプリに移行すると思う。
23	ある	現在の手段とアプリを併用する	集落が高齢者が多くスマホが100%でない。 スマホを使用できない。パソコンも使用できない高齢者が多いため区長もスマホ使用・パソコン使用も難しい人が区長になる時もある
24	ある	現在の手段とアプリを併用する	防災行政無線の時間差をつけての定時放送を行っているが、必ずしも自宅におられるとも限らず、聞き漏らしが発生しているため、回覧板と合わせて連絡をしています。グループLINEを提案しましたが、嫌う人がいるので、現状難しい状況です。区内の予算も年々減りつつある中で、将来的には、有線放送の代替えが必要と考えます。
25	ない	現在の手段を維持する	集落内に無線放送設備がない(敷設できない)地区がある 全世帯共通の設備「防災無線」を活用すべき
26	あまりない	現在の手段を維持する	集落の放送をR6年に無線放送に設備を変更した
27	あまりない	現在の手段とアプリを併用する	今のところ不便はありませんが、ライン、メッセージ、メール等の連絡は周知する必要があると思います
28	大いにある	現在の手段とアプリを併用する	アプリは便利で進めていきたいが、高齢者の方が対応出来ないのではないかと思います。
29	分からない	アプリ中心へ移行する	無線放送設備への移行も検討したが費用が高額な為実現出来ず。
30	ある	現在の手段とアプリを併用する	情報を確認した方が、わからない
31	大いにある	アプリ中心へ移行する	他地域世代間の格差があるため放送、アプリを併用していく必要がある。 完全なDX化は推進に時間がかかるので、希望自治会のみ導入できる仕組みを作りたい
32	ある	現在の手段とアプリを併用する	高齢者への情報伝達として現在の手段も併用する必要がある 自治会支援アプリの浸透度が上がるまでは維持すべきと考えます
33	ある	アプリ中心へ移行する	配布物が多いときは数人に配布を依頼しなければならない。住民の負担が大きいので、配布物を極力減らしてほしい。
34	ある	現在の手段とアプリを併用する	月2回の区長文書もスムーズに回覧板が回らない時がよくありますし、各班に文書を回覧板に回す作業の負担もあります。 すべてスマホなどで伝達することは難しいとは思いますが、今後はスマホを中心とした伝達にすべきだと考えます。
35	大いにある	現在の手段とアプリを併用する	・無線放送については 地区で管理しています 放送連絡は必要と感じています アプリ等文書、メモでは忘れることがあります 放送は確実性が高いので行事の開始、中止などの連絡は重宝しています ・回覧、文書配布は配布ミスがわかりにくいのと、配布量と回数が多いので現在負担が大きい。配布軽減と読み返しが出来るアプリは良いと思います ・アプリのテバイスは高齢者は大きいタブレットが必要かなと思います ・さらに高齢になるとタブレット操作も難しいと思いますので
36	ある	現在の手段とアプリを併用する	締切が短い回覧文章がある(講演会など)まわり切るところには、開催日が過ぎていることがあるので、早く送って欲しい。
37	あまりない	現在の手段を維持する	集落の有線放送の老朽化